

地域での生活を支援する博由園の取り組み

社会福祉法人 博由社
障害者支援施設 博由園
管理者 中田 義則

1. 施設紹介

社会福祉法人博由社・障害者支援施設博由園は、昭和57年4月兵庫県明石市に開設し、約30年が経過した。法人事業としては、博由園のほか高齢者を対象とした事業(2か所)、障害者を対象とした事業(2か所)、管理委託事業(1か所)を行っている。

博由園は、屋上から明石大橋が望める高台にあり環境はとてもよく、自然にも恵まれている。自立支援法の施行時に建て替えを行い、全室個室にリニューアルを行った。

主なサービス対象者を身体障害者とし、施設入所支援(定員50名)、生活介護(定員80名、内通所30名)、短期入所(定員10名)、相談支援事業、居宅介護事業、タイムケア事業、日中一時

支援事業などの事業を行っている。

2. 利用者へのサービス提供の状況

博由園は、措置制度の時代から積極的な在宅サービスを行ってきた。また、通所療護施設(B型)だけではなく、県行政との協力で私的デイサービスを行ってきた。平成15年度から開始された支援費制度を機に、博由園では重度障害者の方のためのサービスの充実を図り、デイサービスと市町村障害者生活支援事業を開始した。

明石市においても、障害者の社会参加への希望が多くなり、それにあわせて重度身体障害者の方のサービス利用希望も大変多くなっている。以前より当該地域における重度身体障害者



外 観

の方へのサービス事業所は当施設だけであり、施設入所やデイサービスだけではなく、利用者ニーズに応じた新たなサービスが必要となってきた。そこで、平成19年度の障害者自立支援法の施行と施設の建て替えにあわせて、最重度の障害者の希望にこたえるべく居宅介護事業、タイムケア、日中一時支援等のサービスの展開と拡充を行った。一人の利用者様が生涯にわたり、障害サービスを利用できることをめざし、現在のような6事業を展開することとなった。

居宅介護事業は、利用者数が年々増加する一方で高齢者介護とは違った側面があるのか、重度障害者を対象とした事業所が増えないため、当施設がそれらの福祉ニーズに対応するようフル稼働している状況となっている。反面、利用者様のご希望に十分に答えることができていないのではないかとこの危惧を抱えている。

相談支援事業所では、施設で生活する方だけでなく、地域で生活する方の生活をいかにサポートしていくのかを常に考え、サービス提供を行っている。その結果として通所生活介護利用希望、短期入所利用希望、就学中のタイムケア利用希望、日中一時支援利用希望の利用者様が増えていることが特徴として表れている。これらの傾向は、在宅生活志向が強い表れではないかと感じている。

また、平成25年4月から施行された障害者総合支援法の特徴でもある難病疾患の方から、生活介護及び短期入所の利用希望、さらに将来的には施設入所希望といった問い合わせや利用申し込みが増えている。

当施設では、従来のように施設を終の棲家とした目標設定やサービス提供を行っていない。利用者様の希望や生活に合わせたサービスを展開することを基本としているため、利用者様に

とって最も暮らしやすく、またチャレンジのできる場所づくりを模索しながら日々過ごしていただいている。

3. 関係機関との連携・協働

上記のような福祉サービスを提供する中で、当然、当施設だけで障害をお持ちの方の生活すべてにかかわる問題解決ができるわけではない。明石市をはじめとして、基幹型相談支援事業所、他種別の施設、社会福祉協議会、居宅介護事業所、医療機関などと連携しながら、一人の利用者様が安心して安全、なおかつチャレンジできる生活が送れるようサービス展開を行っている。

現在では、博由園という障害者支援施設だけが中心ではなく、博由園相談支援事業所と連携して利用者様が望まれる在宅サービス、施設サービスを利用できるように対応を工夫しながら行っている。

博由園相談支援事業所に寄せられる相談内容としては、病院から患者退院後の相談にかかる内容が大部分を占めている。

治療は終了したが退院後の生活についてどう



相談窓口

すればよいのだろうかという相談が、病院の地域連携室や利用者様のご家族から寄せられる。福祉という言葉はよく耳にしている、実際にご本人もしくはご家族が利用するとなると、何をどのようにすれば良いのかわからないことが多いようである。年齢や障害やその他の要因によりサービスが異なることなどもあり、ご本人やご家族、そして地域連携室にとって、その分野の専門家である相談支援事業所はなくてはならない存在となっている。また、相談支援事業所を経由するということは、その後の生活に支援が入るといってもご本人やご家族の安心につながっており、訪問介護や生活面などいろいろな場面での相談が継続している。そのほか特徴的なこととして、身体障害分野特有のことではあるが、相談支援事業所への来訪ということはほとんどなく、ほぼ訪問による相談となっている。そのため相手の顔や住環境を把握しながら相談できるので、より手厚い支援につながっている。現在では、年齢に関係なく必要な相談を行っており、年間約3,000件の相談を受け付けている。

また、明石市には基幹型相談支援事業所がある。具体的には、明石市基幹型相談支援事業所がワンストップ窓口となり、初期相談を行っている。その後、必要に応じて、当事業所の相談支援事業所に引き継がれ、じっくり丁寧に利用者様の要望を聞きながら、最適と考えられるサービスを提案している。その際に、必要なサービスに繋げていけるよう、いろいろな機関と連携をとりながらコーディネートを行っている。この基幹型相談支援事業所には権利擁護、虐待防止センターの機能も持ち合わせており、障害者の方の生活全般の安全を守る役割も担っている。

一方、博由園は、全国身体障害者施設協議会が掲げている「最も援助を必要とする最後の一人の尊重」をはじめとする3つの理念をもとに8つの倫理綱領を基本として、施設や在宅といった区別をするのではなく、施設も社会資源(生活空間、居住の場)の一つであると考えている。明石市というコミュニティの中で、重度障害者の方がいかに生活を送るのか、特に今日ではタイムケア、日中一時支援事業に力を入れ、利用者様の生涯にわたる生活にかかわれるように常に考えながら、行政や特別支援学校を始め居宅介護事業所など関係機関と連携・協働している。

4. 今後について(課題と展望)

現在の課題は大きく分けて二つある。

一つ目は人材不足。これは今に始まったことではないが、今後、景気が回復すればするほど福祉人材が不足するのではないかと懸念している。やはり福祉は人で始まる。法人の理念や方針を理解し、福祉サービスを提供する人材がなくてはならない存在となる。博由園は、コミュニティの中で障害をお持ちの方が生活するうえでなくてはならない人をいかに育て、いかに地域に還元するかを常に考えながらの事業展開を図っている。

現在、明石市では他の地域同様に重度障害者がコミュニティの中で生活を送るうえで、必要となる医療サービスの少なさが二つ目の課題となっている。この医療サービスの少なさとは、医療機関が少ないということではなく、常時医療を必要とされている利用者様が日常生活を送るうえで必要となる福祉医療サービスが不足しているということである。

明石市には隣接して兵庫県立リハビリター

ション中央病院があり、また、さほど遠くないところに兵庫県立こども病院もあるため、重度障害者の医療についてはとても充実しているといえる。そのため、在宅生活が安心して送ることができる地域と考えられる。しかしながら、その医療に福祉サービスが追いついていないという課題がある。コミュニティの中で安心して生活を送るにはどうしても福祉と医療の連携が必要となる。以前から障害者の重度化・重症化は叫ばれていたが、現実問題として医療と福祉の隔たりは大きく、現状に至っている。

最近では、介護職員による医療行為であるとか、認定看護師などが話題になっているが、やはり、専門職が専門職の仕事を十分に発揮できる環境を構築することによって重度障害者がコミュニティのなかで、普通に生活できる、いわゆる共生社会が実現できるのではないかと考えている。

兵庫県では、平成27年度内の完成を目途に「医療型障害児・者施設」の整備を検討している。これが完成すれば、多少なりとも常に医療を必要とする利用者様にとっては、日中活動の場所が新たにでき生活様式が良い方向に変わることができるものと考えている。

博由園としては、相談支援事業所を中心にこのような新しいサービスができることを利用者様に紹介しながら、一方で新たなサービス機関と連携をとることができるように努力している。

先の法改正により難病患者等が障害者の範疇に整理された。今まで以上に医療を必要とする利用者が増えることになる。福祉医療サービスの充実に向け博由園全事業所をあげて取り組んでいく。

最後に、重度の障害をもたれている利用者様

へのサービス提供は、コミュニティが中心となる必要があると考えている。

個人の利用者様が必要とするサービスは個々に分かれており、それぞれ特徴がある。しかしながら、個々のサービスを各施設単独で提供していたのでは、途切れ途切れのサービス提供となり生活そのものの支援にはつながらない。セルフマネジメントを中心とした生活設計の充実に相談支援事業所が中心となり、いかに関わり、いかにマネジメントするか。それをコミュニティがいかに受け入れ共生していくかが今後の課題となるのではないかと考えている。

コミュニティ中心の共生社会が実現すれば、重度障害者の生活はますます高まっていくのではないかと考えている。障害者支援施設博由園はその役割の一端を担うことができるように努力していく。